

文献紹介

リツキシマブで治療中の天疱瘡患者における感染症リスク：アザチオプリンまたはミコフェノール酸モフェチルと比較した大規模国際コホート研究

リツキシマブの投与を受けた天疱瘡患者における感染合併症のリスクはまだ正確に明らかになっていない。本研究は世界 86 か国のデータベース (TriNetX) を用いて、天疱瘡患者における 26 種類の感染症リスクを、リツキシマブ治療群 ($n=963$) とアザチオプリンおよびミコフェノール酸モフェチル (MMF) 治療群 ($n=963$) とで比較評価した後ろ向きコホート研究である。

治療開始後 12 か月間、リツキシマブ投与中の患者では、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) [ハザード比 (HR) 1.82, 95% 信頼区間 (CI) 1.06–3.14 ; $p=0.028$], 寄生虫疾患 (HR 3.22, 95%CI 1.04–9.97 ; $p=0.032$), サイトメガロウイルス (cytomegalovirus : CMV) 感染 (HR 1.63, 95%CI 1.04–2.58 ; $p=0.033$) のリスクが上昇した。また薬剤投与開始後 12 か月以上経過してから発症した感染症では、肺炎 (HR 1.45, 95%CI 1.00–2.10 ; $p=0.047$), COVID-19 (HR 1.87, 95%CI 1.49–2.33 ; $p<0.001$), 骨髄炎 (HR 2.42, 95%CI 1.11–5.31 ; $p=0.023$), 単純ヘルペスウイルス (HR 2.06, 95%CI

1.03–4.11 ; $p=0.037$) および CMV 感染 (HR 1.63, 95%CI 1.07–2.49 ; $p=0.023$) のリスクが上昇した。

以上より治療後 12 か月以内に、リツキシマブ投与中の患者は COVID-19, 寄生虫および CMV 感染症のリスクが上昇し、またリツキシマブは治療後 1 年以上経過しても肺炎, 骨髄炎, ウイルス性疾患との関連が示唆された。結核, B 型肝炎ウイルス再活性化, ニューモシスチス肺炎, 進行性多巣性白質脳症との関連性はみられなかった。リツキシマブ治療後の肺炎球菌ワクチンの実施や抗ウイルス薬の抑制療法のあり方は検討すべき事柄の 1 つであろう。

Kridin K, et al : Risk of infections in patients with pemphigus treated with rituximab vs. azathioprine or mycophenolate mofetil : a large-scale global cohort study. Br J Dermatol **188** : 499–505, 2023

(慶應義塾大学 宮川 明大)